

毎月第4日曜日、宮の町・木引田町の商店街において、市内の各事業所が軽トラなどの荷台に特産品や生鮮品を販売する「軽トラ市」が行われています。



特集

# 商店街を楽しむ

「商店街＝買い物する場所」から「商店街＝楽しめる場所」に物を売るのではなくお客さんに楽しんでもらうという考えから、地域の活性化に取り組む商店街

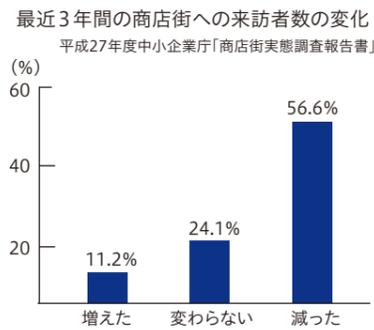
## 商店街の始まり

商店街は、戦後復興期から高度経済成長期にかけて、地域の人たちが集まる「町のシンボル」として存在していました。また、祭りやイベントを開催するなど地域活性化の担い手、コミュニティを形成する「場」として地域に貢献してきました。

## 商店街の現状

その後、百貨店やスーパーなどの出店が相次ぎ、商店街と地域内において競争することとなりました。近年は人口減少による購買力の低下や、後継者不足などの課題に直面するとともに、自動車の普及などを背景に郊外に大規模小売店舗が出店したこと、インターネットの進展により、ネットショッピングなどの市場が拡大したことで、商店街などの中心市街地で買い物するお客さんが年々減少していきました。

平成27年度に中小企業庁が全国の商店街を対象に行ったアンケート調査によると「商店街のお客さんが減った」と答える商店が約5割を超えるなど、商店街を取り巻く環境は年々厳しくなっています。



## 平戸市の商店街

平戸市の商店街では、お客さんが買い物する場というだけにとどまらず、さまざまな取り組みを行うことで、地域の活性化にも取り組んでいます。

今回は、その取り組みを実践している商店街の活動を紹介します。

# まちの商人たちが まちを変える

木引町商店街が昨年から取り組んでいる「まちゼミ」。

商店街の各店舗内で、店主が仕事をすることで習得したノウハウや技術、趣味や特技などを教える講座で、受講料は原則無料。これまでに62店舗71講座、延べ247人が受講し、多くの人が商店街に足を運びました。

1月12日には、県下で「まちゼミ」に取り組んでいる6つの商店街が平戸に集結し、フォーラムが開催されました。各商店街で受講者が楽しめるように講座の内容を改善したり、話し方に気を付けたりと、お互い情報共有しながら商店街や地域を盛り上げるためにどうしたらいいか熱心に議論しました。



専門店ならではの魅力

「まちゼミ」は、専門店として経験・蓄積してきたノウハウや技術、また店主の特技や趣味などを無料で伝えるものであるため、インターネットやテレビなどでは知り得ないリアルな知識を学ぶことができます。

商品の品揃えや価格などでは、大型のチェーン店や通販の方が便利かも知れません。しかし、お客さんが本当に自分に合った商品を選びたいと思っている時には、長きに渡って各業界に携わってきた専門店の深い知識に頼ることができるとも、専門店ならではの強みです。

受講者の満足度を上げることが最優先

まちゼミの発案者で岡崎まちゼミの会代表の松井洋一郎さんは「まちゼミでは、自社の商品を売り込まないというルールを作っています。

す。よく聞く意見が『商店街でイベントを開催したとき、商店街にたくさんの方が集まるんですが、人は来たけど、店の中まで入ってこない』というものです。しかし、まちゼミでは、たとえ売上に繋がらなくても、まずは『お店に来てもらうこと』が重要と考え、受講者の満足度を上げる努力を続けていきます。そうすることで、実際に売り上げにつながる講

座もありました」と話していました。

買い手・売り手・世間が良くなる三方よし

まちゼミは、受講者にとっては、普段知り得ない専門的な知識を得たり、店主と顔見知りになることでお得な情報を得ることができるといふメリットが見込めます。個店にとっては、お客さんと直接触れ合うこ

とができ、新規顧客の獲得やファン作りのきっかけとなり今後の売り上げ向上にも繋がります。地域においても、商店街で買い物する人や新規出店が増えて、商店街全体のにぎわいに繋がると見込めます。つまり「まちゼミ」の実施によって「買い手・売り手・世間の三方よし」で地域全体が盛り上がっていくことに繋がります。



1 フォーラムには、県内各地からおおよそ90人が参加。2 まちゼミの発起人の松井洋一郎さんによる講演。3 県内各地において、まちゼミに取り組む6商店街のパネルディスカッション。4 地元参加者も、積極的に質問。

## お客さんと地域に必要とされる店であり続けるために

平戸まちゼミ協議会  
代表  
(株)たけだ  
たけだ けんすけ  
竹田 健介 会長

全国の商店街では、郊外への大型店の進出などの影響で、商店街への買い物客も減少し店主とお客さんの交流も昔に比べると随分と少なくなってきました。今回のまちゼミの取り組みを通じて、店主の本来の商いに取り組む姿勢というものを再認識させられました。今後は、希薄になりつつある店主とお客さんとの絆をつなぐ役目をしっかりと果たしていきたいと思えます。

最近では、買い物難民や買い物弱者などの言葉が示すように、買い物する場がいかにか大事で必要であるということが叫ばれています。その意味でも、商店街の存続は、地域のインフラ整備であるとともに、再活性化させることが重要です。住民にとって必要とされる店であり続けるためにも、今後も商店街は地域と一体となってまちゼミ活動に取り組んでいきます。皆さん、まちゼミに気軽に参加してみませんか。

